

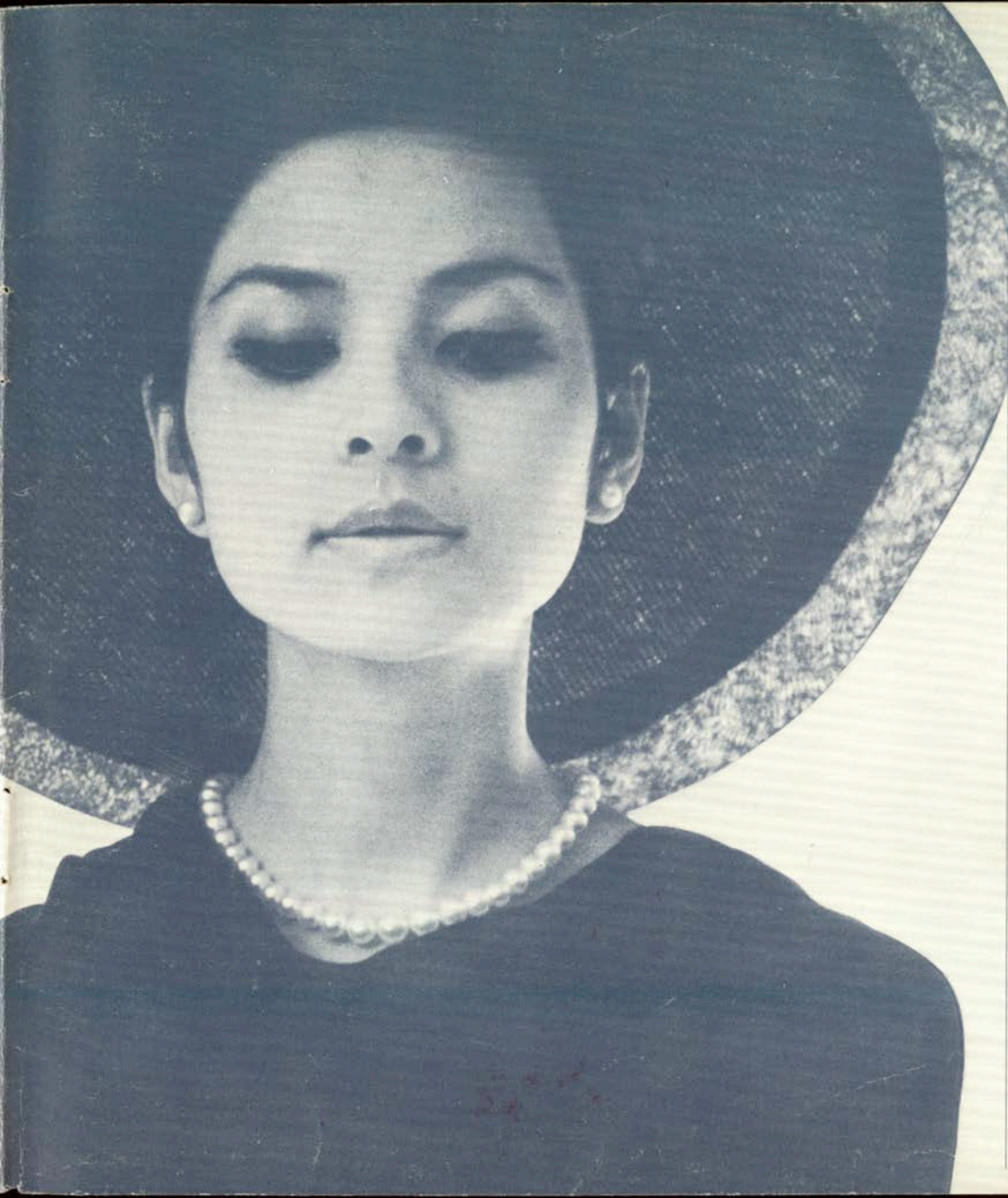
神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和40年8月15日印刷通巻53号 昭和40年8月15日発行 毎月1回15日発行

# 神戸っ子

郷土を愛する人々の雑誌 8月号

RIKOISSO

magazine kobekko august 1965 no, 53



# MIKIMOTO PEARLS

## ミキモト・パール

淑女にふさわしい  
気品とうるおいのある  
光沢です  
ミキモトパールと  
呼んでみるだけで  
心がゆたかになります  
いつまでもあきない  
永遠の宝石です  
西のティファニー  
東のミキモトと  
並び称せられる世界の  
代表的な宝石店  
ミキモトで  
その優れたデザインと  
豊富な品の中から  
お選び下さい



## 御木本真珠店

神戸店：

三宮・神戸国際会館

Tel: 22-0062

大阪支店：

堂島・新大ビル

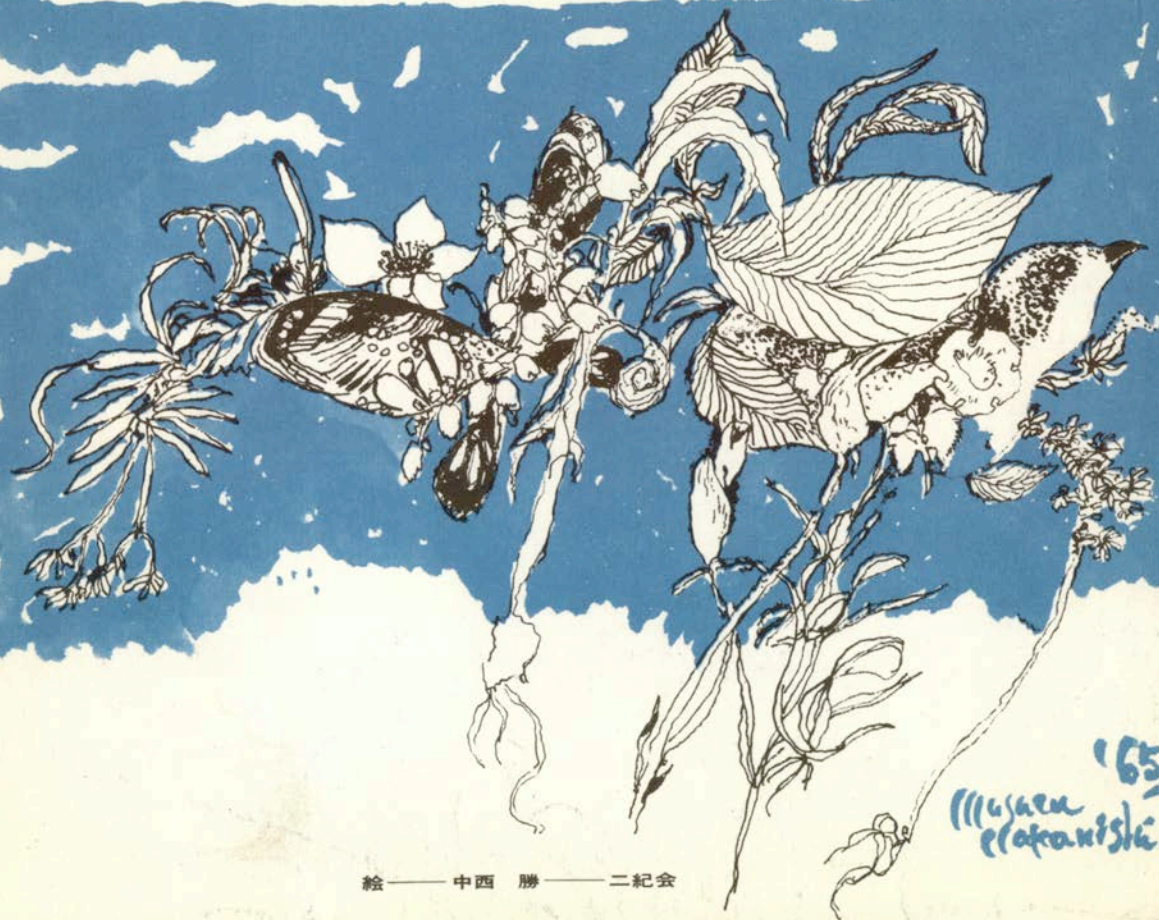
Tel: 363-0247

本店：

東京銀座4丁目



これは神戸を愛する人々の手帖です あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ これは神戸っ子の心の手帖です



1965  
Museum  
of Art  
of the  
City of Kobe

夜空を見あげるあなたの瞳



そつと輝やく

タサキパール

## 田崎真珠

三宮店・新聞会館・秀品店・内  
ニューボート店・ニューボートホテル内  
東京・銀座店・ヒルトンホテル店  
オータニホテル店・羽田・東急ホテル店  
札幌・ホテル三愛店







私の好きなとき

## 山 辺 公 子

〈本年度海の女王〉

撮影 / 西村雅司

クラブを思い切ってふり、白球が思いがけずフツ飛んでくれた時、ほんとに気分がスカッとします。

まだ、西武庫の打ちっばなしや、わが家の庭のインドア相手なので「ゴルフが好き」なんてエラソウなことはいえませんが、高校の体育課目もゴルフをとっていたので、ドライブと同じぐらい好きな時です。

いつもゴルフのコーチ役は父。忙しい父とスポーツを通して楽しいひとときを持てるということも、私にはとても魅力があります。

〈山辺 公子〉

七月二十日海の記念日にミナト神戸待望の海の女王に、甲南女子大学三年生英文科の山辺公子さんが選ばれた。日本の海の玄関口神戸の美しいホステスにふさわしい明るい知的なお嬢さん。観光船へ行くのが楽しみです。ワとほほえんでゴルフのクラブを握るスポーツレディでもある。

21才。

確信をもって  
タジマの目を選んだ  
世界の宝石の名品!

*Tajima*  
宝飾店 **タジマ**

元町2・TEL 33 0387・2552

当店で買上げたタジマの宝石は販売価格で引取り交換も対応しております

南洋パールペンダント

エメラルド19個ダイヤモンド75個入



私の好きなとき

## 山本吉之助

〈兵庫県山岳連盟副会長〉

撮影 / 西村雅司

山の頂に立ったとき、それはいくつになっても私の好きなときだ。……それが森林限界を越えた所であろうとそれよりずっと低い樹林の中であろうと……。

子供のころはだれよりも先に登り着いたとき、長じては頂に腰をおろしてゆったりとタバコをくゆらせたとき一層の快さを感じた。そして、タバコをやめた今でも、このときばかりは、一服ほしいなあとと思うことがしばしばだ。

〈山本吉之助〉

山本さんの三高・京大時代の仲間には今西錦司、西堀栄三郎、桑原武夫氏など、屈指の山男ばかりである。京大の研究室にいた山本さんが神戸へやって来たのは昭和9年の風水害対策のため以来、神戸びいきの神戸っ子となった森林植物園も教育植物園も有ての親。元王子動物園長としても神戸市民になじみ深い。今や六甲山の主的存在だが六甲のアジサイを植えたアイデアはロマンチストな山男の一面がうかがえる。





# 三宮ビル

神戸で初めて生れた理想的なオフィスビルです

10階貸会議室 / ホール

9月1日オープン!

お申込みは

神戸市葺合区小野柄通8丁目1番

地の4 三宮ビル管理株式会社

電話23-9381(代)



■明るく落着いた雰囲気と豪華な諸設備 ■会議、講演、懇談、各種会合、展示会、  
見本市に最適 ■三宮地下街より国鉄、阪急、阪神に連絡、交通至便



ある集い  
→ アフター  
ランチオン  
クラブ ←  
↑



アフター・ランチオンクラブ（A・L・C）は、コスモポリタン神戸にふさはしい英語で話し合う楽しいグループ。歴史は古く38年つづいている。創設者のロイ・スミス神大教授を中心に、会員は神戸及びその周辺の会社や学校、役所などに勤めている人達と、女性には家庭の主婦も多い。元町のビーハイブへ、月に一度昼食の後でお茶を飲みながら英語をしゃべる。

毎回ゲストを招いて、その話をもとにディスカッションが展開されるが、ウィットにあふれるなごやかなもの。二代目、三代目の会員も多いということは、38年の歴史の中に、コスモポリタン神戸っ子の種をまいて根を深くひろげているユニークなクラブだといえよう。（本誌16頁をご覧ください）

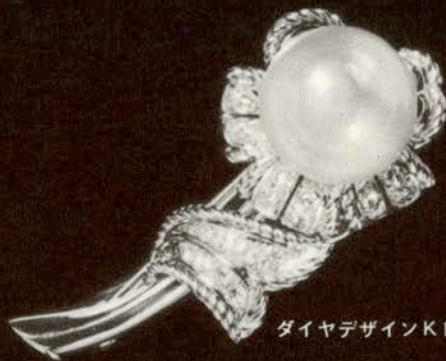
写真左手前テーブル左より  
宮内猛（神戸高校教諭）東島健児（東洋綿花大阪本社）植田沙智子・白竹敏子（三菱商事神戸支店）

写真左手後テーブル左より  
出田美佐子・堀憲治郎（ビジタ）鈴木勝次郎（ダイハツ工業）四方力蔵（英語塾）ロイ・スミス（神戸大学教授）バトリシア・ムーア（英語指導）佐古利平（南興物産・丸紅飯田）

中央テーブル左より  
ライントホルスト・ウオルフ（パテントコンサルタント）児玉享子（神戸女学院院長秘書）アユニオン・キャンプリン（神戸ユニオンチャーター）伊地知優子（山手女子学院講師）

右テーブル左より  
洲崎靖子・植田博信（京大法学部）高木知子（池本行広）竹田商店・小泉竜徳（ネッスル）kk神戸支社・キャンプリン・治子（神戸ユニオンチャーター）入江八重子（マーカントイル銀行神戸支店）

*Murata Pearls*



ダイヤデザインK18南洋真珠ブローチ



ムラタパール ショールーム

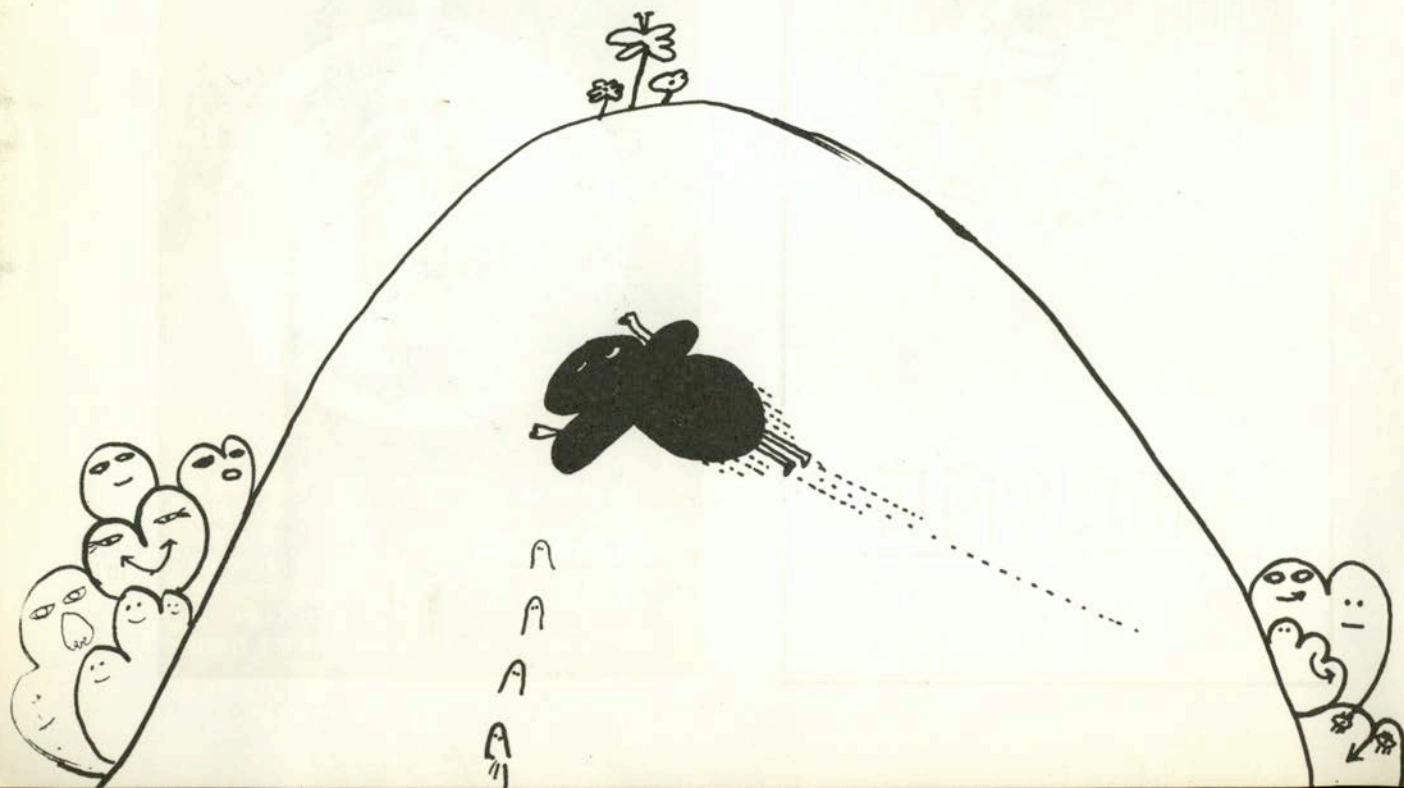
山本通 4・㊤1212～6

■ さんちかタウン〈ムラタ〉婦人服・真珠・毛皮  
10月1日オープン

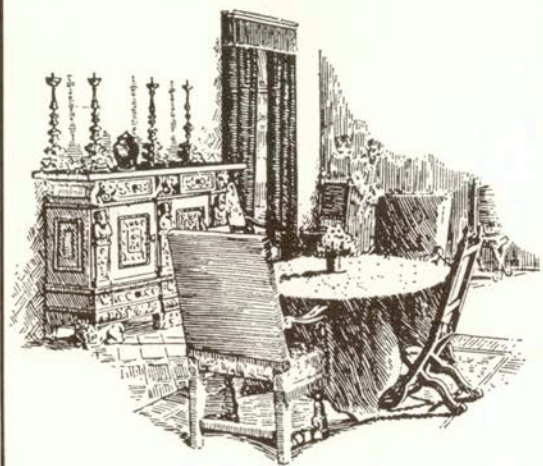


# 8月号目次

1	Second Cover / 中西 勝
3	グラビヤ / わたしの好きな時 / 撮影・西村雅司 / 山辺公子・山本吉之助
7	グラビヤ / ある集い・A・L・C
11	わたしの意見 / 佐谷 弘
12	六甲随想四題
16	六甲の思い出・H・W・シェール / 六甲と文学・赤尾兜子 / 動く六甲・佐藤茂樹 / 六甲に生きる・池野良之助
27	ある集い / その足あと / アフターランチ
30	オン・クラブ
33	随想 / 登山趣味・川村大膳
39	随想 / 夏の夜話・白川 渥
40	インタビュ / 中村光夫氏を訪ねて
42	神戸っ子放談 / 原 泰良
44	経済ポケットジャーナル
46	るぼるたーじゅ神戸
49	湊川新聞地 / 松原新一
53	神戸の集いから
55	映画のこと手当り次第 / 淀川長治
57	コンニチワ船長さん / きく人 / 玉奥 章
61	コウベヤングメンズ・ジャーナル
67	MODE of Kobe / 福富芳美
70	8月の髪 / 西野 明
74	THE DOOR MAN of ORIENTAL HOTEL 2
76	パリの通信 / 佐藤昭年
78	暮しのパラエティ / 夏を楽しむ
80	六甲特集座談会 / 六甲の魅力
82	Map of mt. Rokko
84	神戸遊戯誌24 / 登山①・青木重雄
86	神戸うまいもん巡礼 No.8 / 赤尾兜子
88	神戸入問 / 竹田洋太郎
90	ポケットジャーナル
92	神戸を楽しむ私のコース / 中山 輝正
94	連載第28回 / 神戸夫人・武田繁太郎
96	グラビヤ / 酒徒交遊録・西脇 親
98	グラビヤ / 神戸12カ月・岡部伊都子
100	撮影・緒方しげを
102	グラビヤ / 神戸銘店抄・陳 舜臣
104	表紙・小磯良平 / カメラ・米田定藏・米田 昌弘 / レイアウト・中辻悦子

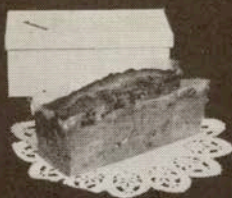


家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ㊟ 3 7 3 7  
3 7 3 9 }



バウム・クーヘン  
ビスケット  
キングケーキ  
フランクフルター・クランツ

憩いの  
ひとときを  
飾る  
ドイツ菓子  
伝統の  
風味



ドイツ菓子  
Fuehrlein's  
ユ-ハイム

本店 神戸三宮生田神社前  
TEL. (33) 1694・8063  
三宮店 神戸大丸前市電筋  
TEL. (33) 2101. (39) 3808  
本社 神戸市東灘区住吉町茶屋83  
TEL. (85) 9564 代表  
東京 / 銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店



# 「銀河」廃止に 反対する

＊わたしの意見

佐 谷 弘

〈神戸商工会議所専務理事〉



これまで東海道本線の起点としてほとんどの始発をもっていた神戸ですが、今ではわずかに「銀河」と「比叡」の2本だけです。その上こんどは「銀河」まで廃止しようという意向が国鉄当局から打ち出されています。神戸市民として、これは黙視しがたい問題ではありますまいか。

昔は鷹取駅に客車の操車場があったのですが、戦災で焼けてしまっただけで、神戸発の客車は宮原と鷹取の間を操車のために空車のまま往復しなくてはなりません。そのために要する国鉄の負担額は、かなりの額にのぼるらしく、神戸始発の列車にはそういう不便がつきまといてくるようです。また、列車の利用者について考えても阪神間の人々は、乗降に際しておおむね大阪駅を利用しているといえましょう。そのため、神戸が冷遇されるというのでは残念なことです。

10月には国鉄のダイヤが改正され、新幹線の増発は確実であり、おそらくほとんど倍近く増発されるのではないかと思います。そして、旅客はすべて新幹線で、という新しい事態が生まれようとしています。「銀河」を削除しようという動きも、それと関連しているわけですが、しかしながら、私は「銀河」と神戸市民との深い結びつきから考えて、あくまで「銀河」を生かしていただきたいと思っています。理由は次の二つです。

第一は、「銀河」が神戸市民にとって極めて便利だということことです。寒い冬など大阪まで出かけるというのは不便な話で、そういう実用的な面での理由があります。第二は、列車はいわば町の格を示すものであり、また、「銀河」が市民に深く親しまれているという点からいって、「銀河」の廃止は望ましくないと思います。

今後、四国との連絡、播磨地帯との結びつきが緊密になることは確実ですが、その意味からも交通の要衝としての神戸の意義は大きいものがあります。神戸の面目にかけても「銀河」は残さなくてはなりません。

# □六甲随想四題□



## 六甲の 思い出

H・Wシエール

私は、ハンブルグで生まれました。日本に来た時ですか？ もうずっと昔の話ですね。むこうで貿易会社に勤務していたのですが、一九〇三年、つまり明治三十六年に横浜に来たんですよ。その頃の日本というと自動車がなく、人力車の時代でしたね。働いている女性にしても、今とちがって電話交換手だけだったように覚えてます。その頃、3年契約で日本に来ていたのですが、ぜひと頼まれて結局6年間おりました。その後シベリヤ鉄道を使って母国へもどりましたけど。

二度目に日本へ来たのは、一九一〇年。その時は神戸でした。その後、友達にすすめられて、

K・W・S（神戸徒歩会）にはいったわけです。えーっと、それが一九二〇年だったですね。たしか徒歩の会が百六十四回目を迎えた時でしたよ。それ以後の登山者名簿7巻を、今も持っています。

はじめて山に登った時は、ものすごく足が痛かったことを覚えてますね。二回目の時にそれをいったらね、友達のように「ほくたちも最初はそうだった。だからもういっぺんだけ来て下さい。それでだめだったら、やめていいです」それでね、その次に登ったらそれほど苦しくなかったです。それからもう、ずっと続けました歩くことと健康、それから美しい景色をみることにいいことですね。まあ、昔は「山」という感じがしましたけど、今は公園ですね。以前は茶店が1、2軒あるだけでしたがね。そうそう、六甲山に天狗がいるという噂がありましたよそれでね、茶店のちようちんを持っていったんですが、すると天狗は恐ろしくなかったですね。

ゼンスケ茶屋というのがあります。5銭出すとコーヒーが飲めました。帳面に名前を書いて帰ってくるのですが、三百回行くと、バッツをくれましたね。それから会の幹事になったわけです。やが

て大正10年に婦人の登山会が生まれました。

シエル道？ でも、だれがいつ頃からいいだしたのか、よく知らんのですよ。人からいわれて、初めてわかったんですけど。地図を見ると、それがあるとですね。この頃、ドライブウェイができたでしょう。それでゆくり歩かれへんのや。昔、徒歩会にはいつていた時には、どんな時でも登りましたね。会長さんがクサナギさんという人でね、軍人でした。その時はセイウロンゼズ（晴雨論ぜず）



愛犬とシエールさん

といっていました。今は雨天決行というんですね。

最近暑さに弱いので夏はいかないが、それでもときどき友達と登りますね。阪急レクリエーションクラブというのにはいつています。ときどきハイキングに行きます。5、6里くらいなら今でも歩けますね。年ですか？ 81才です。もう年ですね。（笑）

昔の六甲と今の六甲ですか？ 先にもいつたけど、今はなんだか



山の気分がないですね。町を歩くというのは、しようがなしに歩くということですね。しかし、空氣のよい、静かな山を歩くことは、義務づけられたことじゃなく、習慣なんです。思い出せば、昔の方がよかったなあ、ということですね。やはり、自然そのものの山を残しておいてほしいと思いますね。もともと、山を元へもどせといっても、無理なことですから、やむをえないかもしれません。

#### 〈談〉



## 六甲と

## 文学

### 赤尾 兜子

数年前、であったか、六甲山系を調べる必要があつて、この山系の文学とのかかわりようを古くは万葉集から現代作品にいたるまで丹念にさがし、集めてみたことがある。

そしてその時、総括して感じたことは、山麓には、かなり文学の

足跡がみられるが、山上のそれは、意外にまずしいということ、決定的な作品がとほしいということ、つのであつた。山上の文学の足跡が意外にまずしいのは、この山が海に近く、またそれだけ人里近くにありながら、ながらく人の足の入らない不毛の山であつたこと、その辺が例えて近畿でいうなら比叡山や高野、吉野山とちがう。そしてグルームさんによって明治中期いらい開発されてからも、この山の主役がゴルフと貸別荘という一種特権階級の山であり、それだけ文学の主役となりにくかつたのではないかという感を強く持ったのである。そしてその考えは、いまま変りがない。

もともと、そのまずしいという山上に限っても、九条武子さんの「無憂華」のなかの短編「六甲山の夏」の一文は、昭和初年の山上を描き、戦後作品になると、大岡昇平氏の「酸素」には、戦時中のゴルフ場の風景が現われているし、ごく近くは、三十五年に毎日新聞に連載した山崎豊子さんの「女の勲章」の主人公、式子が銀四郎に犯される舞台は、山上のホテルで、高山植物園、天狗岩、あじさい、カンツリーハウス、極楽茶屋などもくわしく登場するし、決して扱われていないというのではない。

むしろ、私は、こんごにこそより多く、しかも新しい文学のなかに、登場するのではないかと思う。六甲の山上は、いまさらいうまでもなく、日々これ開発され、人工の手がどんどん加わっている。「人工スキー」登場などというのもその一例である。この山に人工の手が加わるのはさけられぬ宿命みたいなもので、それだけ近代的な山になりつつあるということだ。そして、交通網の整備によって、この山は、神戸の人たちのものだけでなく、阪神間の、もともと広くは近畿の新しい山になるのである。新しい山にはおのずから新しいセンスが生れる。それと文学との組みあわせは、よりこんごに多くを待つべきであろう。

大正二年、青春のたかぶる血をマントにつつんで、山頂にたった富田碎花氏は「赤衣の漂泊者」という詩を残している。そしてその登頂を同氏は「住吉の有馬道を登山口として、弁当もちでまる一日かかって歩いて登ったが、山には茶店は一軒しかなかった。下りは有馬へ、そして汽車で大阪へ向って帰ったものだ」と回想しているが、それから五十余年、その変貌ぶりはいぢるしい。

先日白川渥氏に「若いころは

よく六甲を歩いたもので、ツエがちびて半分ぐらいになった」という話を聞いた。

関西でも、このころ兵庫県は、文学不毛の名を返上して、各分野とも才能の花ざかりである。山麓をのぞいておよそ伝統らしきもののすくない六甲への文学登頂は、これからのそれらの人々の手にある、またそうあるべきだと私は思いたい。

# 〈俳人〉



## 動く

## 六甲

佐藤 茂樹

六甲山はお多福山と住吉川流域の一部にわずかの古世層を残すだけで、他はほとんど全部湿り気なしの御影石から成っている。

この岩体には古期と新期の二種があり前者は表六甲の裾の部分から布引、鳥原を通り高取から西方に分布し、後者は六甲の大部分を占めている。古期のものは領家花

コウ岩で古生代末期の生成で、できた時代が古いだけ風化の深部に及ぶものが多く、断層の作用も加わって崩壊しやすいから、宅地造成などはことに注意が肝要。新期のものは中生代末期にできたもので、現在頂上近い北側に石切り丁場があり長石がやや桃色を帯びているので、業者間では桜御影の名で取引きされている。堅く

て美しい岩石の王者御影石にも玉に傷で、長く風雨にさらされると鉄分の酸化で赤錆を生じるし、長石、雲母、石英の粒状組織は寒暖の温度差で結合がゆるみ、風化作用を受けてぼろぼろにくずれること。しかし腐っても鯛は鯛以上で、くずれたものは土木用その他に、また海にまで流れ入っては白砂となって、松の緑と照り映えて須磨や明石の絶景をつくる。この風化によってロックガーデン・極楽溪・蓬来峡頭谷・などの奇勝をつくり川底の高い天井川とか砂防工事の段々、水をたたえた堰堤など、花コウ岩地特有の景観をうんでいる。

動かさること山の如しというが山も長い地質時代には幾度かの浮き沈みがあり、約三億年前の石炭紀のころには、六甲山は影も形もなく兵庫県はいうまでもなく、日本全体は海の底だった。その後古生代の終りから中生代にかけて、

日本の大部分は一度陸化した間もなく寸断された状態となり、地質上の新しい日本の誕生は新生代の第三紀だといわれるし、今の瀬戸内海も三代目で隆起と沈降の連続だったことがよくわかる。六甲山とて決して例外ではなく大なり小なりの変動が、くりかえされたことが想像される。

六甲山の上昇を証拠だてるものに六甲衝上断層がある。蓬来峡や有馬では生野層に属する流紋岩にのし上り、長田の丸山では新しい第三期中新生の地層にのし上っている。ここではその作りが明瞭なのと最初に発見された場所なので、神戸丸山衝上断層の名で天念記念物として指定されている。これとまったく対照的に表六甲には諏訪山、五助橋衝上断層と芦屋衝上断層とがほぼ平行して走っている。芦有有料道路工事現場からナウマンゾウの化石が出たり、白川・藍那・山口などから亜熱帯性のシユロ・ピロウ・フウ生きた化石で有名なメタセコイアなどの植物化石を産することも、直接間接に六甲の成因と時代の判定に役につく。

今の六甲の隆起は第三紀末に端を発し、最盛期は第四紀の洪積世で百万年前以降だといわれる。この変動は近畿地方の地形地質に大



きな影響を与えたので、六甲変動といわれ、その後もなお継続して微々ではあるが、激しい日々に襲いかかる風化水食の低平化作用に抗して、多くの動植物をはぐくみつつ、山を愛する人々に楽しい憩いの場所を与えながら一刻の休みもなく、大自然の限り知れない大きな力をバックにして、生き生きとした活動と変化とを続けているのである。

〈滝川高校教諭〉



## 六甲に生きる

### 池野 良之助

灼熱の太陽が六甲連山の彼方に没し、地上に、まんだら模様の影を描き、あたりに夕闇が迫り、やがて夜の色に染まってゆく、寂しいけれども、美しい山頂の夕暮です。

夜になると闇の中で観測所をとりまいて夜の妖精達の舞踏が始まり、やがて窓の隙間から妖精達が部屋の中へ忍びこんできて：「おじさま、お一人で寂しいでしょう、

私達と一緒に踊りませんか」……とささやいてくれる。人里を遠去かった山奥で暮していると、こんな幻想と錯覚に襲われるのです。

× × ×

神戸と大阪をつなぐ阪神間の屋根として延々五〇軒に及ぶ国立公園六甲連山。その東南端に雷岳山系という別峰があり、その最高部、標高海拔五六五m、阪急沿線夙川駅から西北約六、五軒苦楽園北屋根の峻険な岩場の屋根道を登りつめた雷岳に昭和十年三月十日現在の観測所が新設されました。そして私が初代の観測官として就任しました。それから三十年の才月が夢のように流れ去りました。風雪に耐え、孤独に徹した隠遁的観測生活を振り返って精神的苦痛と忍従につきると思います。

六甲連山の一角に住みついて三十年、六甲山の美しい四季の流れに身を委ね、戦前から今日迄、下界の激しい時代の移り変りと六甲山の変貌を眺めながら山に起き山に寝て、山にすべての愛情と情熱を傾けて六甲を災害から守るために半生を賭けてきました。

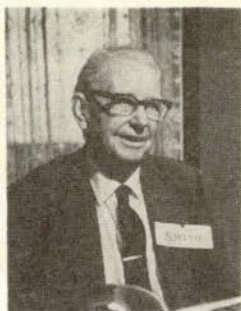
六甲山はほんとうに美しい山岳です。六甲山は関西のアルピニズムの発祥地。また、谷あり、岩あり、高原あり、あらゆる魅力と牧歌的情緒が散在しています。

しかし最近はやりの開発が進められ自動車道路、宅地造成などで、美しい六甲山の自然が失われてゆくのが寂しく思います。

私は時折、下界へ降りた時、海岸から六甲連山を泌々と眺めます……宅地造成のため山肌は削られ無惨な姿を残念に思い、これが往年の昭和十三年七月五日の阪神間大水害のような大災害の誘因とならねばよいかと杞憂を感じます。

私が俗界を遠去った山奥で孤独に徹した生活をしているというので孤独を愛し憧がれる女性ファンが集まってきました。しかし訪ねてくる人々の殆んどが戦後の若い人達で赤裸々な感情で、ぶつかつてこれれると私には、とても太刀打ちが出来なくて明治生まれの頭の回転ではとても追いつけない抵抗を感じるのでした。けれども戦前、戦後を通じて連綿として続いている下界の大勢のファンの皆さんの精神的、物質的の援助や激励、声援、慰問という支えがあつてこそ、この悪条件と困難と精神的忍従につきる三十年の観測生活を完徹しえたと感謝と喜びに耐えませんが。六甲山は私の第二の故郷であり生涯を賭けた場所なのです。残された余生を六甲山を災害から守るために、戦ってゆきたいと思っています。

〈農林技官・人間燈台〉



# ★ある集い ★★★★★★

## その足あと

## ユーモアと 人間愛あふれる アフター ランチオン・クラブ

一九二〇年代熊内にあった愛隣会で会合していた人達が、昼休みを利用して元居留地のどこかで英語で話し合う会をしてはと考えるようになりました。それは元居留地の各商館で働く人達がお互いに英語を聞いたり、話したり、またゲストを招いて話を聞き見聞をひろめたり、親しく友達になろうという港町神戸での自然な欲求の現われだといえます。その頃ランチオンクラブ（昼食会）はすでにあったのですが、各商館に働く人達には時間も長すぎるので、アフターランチオンクラブと名づけて、昼食後お茶を飲みながら四十五分ぐらいで週一回開かれることになったのです。初めての会合は一九

二八年に開かれて第二次世界大戦前まで続きました。戦争が起ころ前はスパイ容疑がかかるので、メンバーはだんだん減り、憲兵隊は来る、国賊あつかいにされるという惨たんたる有様でついに休会。戦後、ふたたび春が来て、活ばつな活動が始まりました。毎月一回日毛クラブや神戸銀行クラブで開き、先年35周年の記念会を催したそうです。現在は元町のビーハイブで第三土曜日二時から四時まで、例会が催され、約五〇名の会員をようしています。

初めての会からR・スミス神大教授（当時神戸高商在職）は現在までの三十八年間、アフターランチオンクラブの創設者の一人として、その歴史とともにあゆまれました。当時アメリカのイリノイから神戸へやって来たスミス氏は、元居留地の人力車の車夫が「乗ってください」と頼むと驚いて「ワタシ達の同胞デアル人間ノヒツパツティル車ニハトテモ乗ルコトデキマセン」と答えて車夫と一緒に歩いたという心暖たまるエピソードの持主。87才という高令ながらアドバイザーとして毎回出席されているようですが、良識に生きるスミス教授のヒューマンな心が会をささえるバックボーンになっているといえるでしょう。もう一人のアドバイザーはアメリカ文化セン

ター館長のトーマス・ライマー氏。会員は神戸とその周辺の会社、役所などに勤める人々、学校の先生、秘書、通訳、宗教家、そして家庭婦人など巾の広い階層の、英語が好きな日本人と外国人です。毎月ゲストスピーカーを招き、教育のこと、文化事業のことを、領事館の人や外国から帰って来た人、外国から来た人に未知の世界の国々の話などを聞きその後でゲストを開んで愉快なディスカッションがはじまります。皆がのびのびとリラックスに手をあげて質問している様子は、自然に生きた英語を身につけて、国際的な視野をひろめているようです。会員の中で毎回、議長、副議長、記録書記、連絡係、会計が決められ、ゲストにだれを招こうかとプランをねります。ライシャワー大使を招きたいと今、案をねっているそうです。20年も続けて会員になっている鈴木さん、戦前のメンバーで現在二世がバトンタッチして出席している人、東京転勤で休みあけには真っ先にかけてつける人、戦前日本にきていて会があるので寄ったという外人など多種多彩。これも暖かい人間愛から、みんなを気易く歓迎し、とけこませるコスモポリタンな風があるからでしょう。

（クラブページをご覧ください）  
写真はアフターランチオンクラブの会合でのR・スミス教授――



北欧の銘菓

# ユーハイム コンフェクト



バウムクーヘン  
〈ピラミッドケーキ〉  
クッキー  
ムンデット  
シモン  
デビルドチーズビスケット  
各種高級洋菓子



本社・工場 / 神戸市葺合区熊内町1丁目 TEL 22-1164・9865

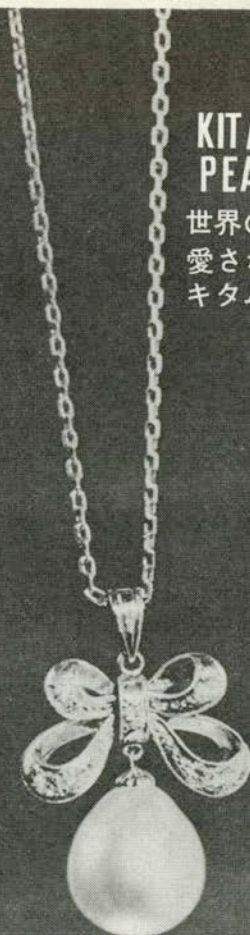
熊内店 / (市立美術館隣)

三宮店 / 三宮生田筋(階上喫茶室) TEL 33-7343・0156・4314

神戸 / 大丸店・阪急店・鉄道弘済会・三越店

## KITAMURA PEARLS

世界の人々に  
愛される  
キタムラパール



## 北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL 33 0072

オリエンタルホテル店 33 8111 EXT. 331

東京：スキヤ橋店 TEL (571) 8032



セイコー特約店



美田時計店

神戸・元町3丁目  
TEL 33-1798・8798

呉邦陳磯  
みよーや

電話神戸③三三八八九番  
大阪店 阪神百貨店三階  
電話大阪⑥五五四八番  
姫路店 やまとやしき百貨店三階  
電話姫路②二二二番  
衣裳部 三宮町三丁目柳筋  
電話③五一六五番